# 京都部落問題研究資料センター通信

第71号　発行日 2023年4月25日（年4回発行）編集・発行 京都部落問題研究資料センター

## 2023年度 差別の歴史を考える連続講座

第1回　6月16日(金) 講師:エィミー・ツジモトさん(フリーランス国際ジャーナリスト)
テーマ:「問い続けてなお ―満州分村移民と部落差別―」

被差別部落による開拓団編成に着眼された熊本「来民開拓団」。だが敗戦は開拓史上稀に見る「大惨劇」を強いた。

第2回　6月30日(金) 講師:亀岡哲也さん(滋賀地方自治研究センター)
テーマ:「近江と食肉文化」

和牛のブランド近江牛。その産地近江を中心に、江戸時代には喫食がご法度とされた牛馬肉の利用を考察する。

第3回　7月14日(金) 講師:畑中敏之さん(立命館大学名誉教授)
テーマ:「島崎藤村『破戒』を読み直す―かくす・あばく・かくさない―」

部落差別とは何か、「かくす・あばく・かくさない」をテーマにした島崎藤村『破戒』をもとに考えます。

第4回　10月13日(金) 講師:小林ひろみさん(奈良県立図書情報館会計年度任用職員)
テーマ:「幕末京都の非人小屋『水車』の人々」

幕末京都の「貧困ビジネス」の一翼を担った非人小屋「水車」の小屋頭とその配下の非人たちの姿を追ってみます。

第5回　10月27日(金) 講師:棚田洋平さん(一般社団法人部落解放・人権研究所事務局長)
テーマ:「日本の識字問題から『人権』について考える」

日本においても「識字」の問題は存在します。「人権」という観点から、今日の識字問題を考えます。

第6回　11月10日(金) 講師:佐々木政文さん(京都先端科学大学人文学部准教授)
テーマ:「近世政治起源説はなぜ一世を風靡したのか―社会思想史の視点から―」

近世政治起源説を、部落史認識の誤り（偏り）としてではなく、一種の社会思想として捉えて分析していく。

《会　場》 京都府部落解放センター ４階ホール　　《参加費》 無料
《時　間》 午後６時３０分～午後８時３０分
※ 参加ご希望の方は連絡先を明記の上、前日までに FAX・電子メールでご連絡ください。

# 本の紹介

## 姜善奉 著・川口祥子 訳『小鹿島（ソロクト） 賤国への旅』

中島智枝子（ポッサムの会）

### はじめに

姜善奉（カンソンボン）さんについては本通信第五〇号（二〇一九年四月二五日）の拙稿「本の紹介　姜善奉詩集『小鹿島の松籟』」で紹介しているのでご存じの方もいらっしゃることと思われる。一九三九年、韓国慶尚南道晋州に生まれた韓国の詩人である。現在、韓国のハンセン病の隔離施設があった小鹿島に居住されているハンセン病回復者である。（注1）

本書は詩人姜善奉さんが小鹿島での生活が始まった一九四六年から小鹿島から脱出する時期までの自伝である。ところで本書は詩集に先立つ二〇〇六年四月に『賤国への旅』という題と姜京燮という筆名で出版されている。二〇〇九年に小鹿島と対岸の鹿洞との間に小鹿大橋が開通し、対岸の全羅南道高興郡の鹿洞港から小鹿島東側の船着き場までの一キロあまりを自由に往来することが出来るようになった。これを機に二〇一二年、筆名を本名の姜善奉にして改訂版として出版された。

改訂版で姜善奉さんは「はじめに―再刊に当たって―」で次のように書かれている。

本土と自由な往来が出来るようになった。「明らかによい時代に変わりつつあるのですが、私たちはいまだに涙と恨が積もった小鹿島での数々のできごとを、胸に秘めて生きています」と述べられている。

本書は改訂版を訳したものである。姜善奉さんの詩を理解するためには姜善奉さんの自伝の出版がまたれるところだった。この度、詩集の訳者川口祥子さんによって自伝も翻訳され刊行されることとなり、詩集とあわせて本書を読むと韓国におけるハンセン病を巡る歴史や、その問題について理解が深まるであろう。とりわけ、姜善奉さんの子ども時代から青年を迎える時期は、韓国が日本の植民地支配から解放され、朴正熙大統領が誕生する一九六〇年代の二〇数年の時期の韓国におけるハンセン病の施策がどのようなものであったかを知る上でまたとない書であるといえる。

本書の構成は以下の通りである。

一　賤国への道
二　賤国の人たちが願う天国
三　賤国市民になるということ
四　それでも生きなければならない人たち
五　聞こえないこだま
六　あなたたちの天国、私たちの賤国
七　世間のなかの賤国
八　人間らしく生きるために
エピローグ

### 一「賤国」という言葉

「賤国」という言葉は本書ではじめて知った言葉である。聞き慣れない言葉である「賤国」について姜善奉さんは「エピローグ」で次のように述べている。

韓国で有名な作家の李清俊が小鹿島を舞台にした小説を『あなたたちの天国』（注2）と言う題で一九七六年に出した。この小説は一九六〇年に小鹿島に新しく赴任してきた趙昌源院長を中心にしたものである。趙院長が積極的に推進した五馬島干拓事業で院長は事業推進のため入所者達に過酷な労働を強制した。李清俊の小説はその時期に取り組まれた干拓事業を中心に描いたものである。小鹿島を「天国」、そして入所者達を「あなたたち」と表記したものなのだろうか。医者として五馬島にこの時期派遣された姜善奉さんにとっては「思い出すのも嫌なほどつらい経験をした」ところだけに、

全く反対の意味を持つ「賤国」としか言えないような所でしかないということだ。

姜善奉さんはこのことについて次のようにいう。韓国では解放後は統治下の隔離政策ではなく定着村がつくられていったと言われている。一九五〇～六〇年代に小鹿島退院者に対して、小鹿島病院退院証明書を所持させ、彼らが居住する場所は共同墓地の近くであるとか、都市の近くであるが谷の深い往来が途絶えた場所などであり、これらの地を「定着村」と言う新たな名前をつけて新たな「賤国」を建設させ差別を行ったという。このようなことからも小鹿島の人たちにとって決して小鹿島が天国であるはずはないと姜善奉さんには思えるのである。（注3）

一の「賤国への道」は姜善奉さんが一九四六年、小鹿島に住むようになるまでの経過が書かれた章である。

姜善奉さんの父親はハンセン病に罹り生家で隠れて生活していたが警察の知るところとなり小鹿島に収容された。ところが、小鹿島の過酷な生活に耐えきれずに脱出して慶尚南道晋州の付近にあるハンセン病に罹った人たちが集住して暮らしていた村に住むこととなった。そこで姜善奉さんの母となるハンセン病に罹り生家から追い出された女性と知り合い、やがて二人は結婚をして姜善奉さんが一九三九年に生まれた。両親は村人達と共に物乞いをして生活をしていたが、解放前に父親が亡くなり、母子家庭となった。物乞いに不慣れな母親にとってはそんな生活はなかなか厳しいものがあった。幼かった姜少年が母親に代わり先頭に立って行ったということだ。

日本の敗戦により韓国は日本の植民地から解放された。この頃、重症化したものは釜山に集められるということがいわれ出してもいた。姜善奉さん親子は晋州の近くにある咸安に住んでいたが、釜山に集められることとなった。やがて、一九四六年、小鹿島に連れて行かれた。

一九一六年に朝鮮総督府が小鹿島につくったハンセン病の隔離施設、慈恵病院は名称をかえ解放後もそのまま存続していた。小鹿島は陸地と近い島でありながら水が豊かであり、最寄りの陸地からの距離は五〇〇メートルあまりに過ぎないが海流が激しく泳いで渡ることは出来ない「天恵の要塞」であったということだ。

本書に付けられた「小鹿島更生園全図」をみれば治療の施設だけではなく島内にはあらゆる施設があり島内で一生涯が完結する空間、つまり、ハンセン病に罹った人たちを終生隔離するように出来ている島であったことがわかる。

## 二　小鹿島の生活

二の「賤国の人たちが願う天国」では小鹿島の入所者の日常生活が描かれている。入所者は、既婚者、未婚者は男女別にそれぞれ分けられて住居棟があった。子供は父母と分けられ居住する住居棟が作られていた。子供達の住むゾーンには子供の通う保育所があった。子供達は月に一回、親との面会が許されていた。そのことに触れた姜善奉さんの詩「愁嘆場」という詩がある。本書カバー裏側の姜善奉さんが描いた愁嘆場の絵からもわかるように病舎地域と職員地域を分ける境界線道路の両端に親と子供を一定の距離を保って立たせ親子といえども直接触れることは出来ないようにした。親子は目と目を交わすのみであった。面会とも言えない親子対面の場である。

大人達とりわけ高齢の人や教会関係の人たちは子供達の教育に熱心で、子供達には仕事より勉学に専念できるようにした。解放前は日本語での教育が行われていたが、解放後は韓国の教科書が使われた。子供達は小学校課程を終えると、選抜試験をへて中等教育課程の鹿山中学校に進学することが出来た。

当時の小鹿島の入所者は六〇〇〇名を超えていた。ところが政府が派遣した病院の医師は二、三名、看護師も二、三名だった。入所者全員を見るにはあまりにも少なかった。さらに、医療関係者が手薄

なだけでなく生活物資も不足し、入所者達は食料や燃料の入手に苦労する状態であった。

中学校が最高学府であったが医師不足もあり、毎年中等教育履修者から試験を経て二〇～二五名を選抜して医学講習所で学習をさせた。一年を医学的知識、一年を実習教育にあて、二年の課程を終了した者に修了証を出し、入所者の治療に当たらせた。医学講習所の教育は病院側が行った。看護員も教育を施し看護師の任にあたらせた。このほかに、高等教育機関としてキリスト教会の長老達によって高等学校課程に聖書の勉強を加えた誠実（ソンシル）高等聖経学校があった。入所者達の指導者となる人材の育成がこの学校ではかられた。さらに、キリスト教会が中心となり、成人の文字の読めない人たちを対象にした夜間ハングル教育も行われた。

小鹿島の人たちにとってキリスト教への信仰は厚かった。新教（プロテスタント）に帰依する人が大半で、天主教（カソリック）は少数だったという。

母親からしっかりと勉強しなさいといわれていた姜善奉さんは勉学に打ち込む一方、母親にかわり大人達に交じって生活のために薪拾いや養鶏をして卵を売って現金を得ること等生活のために懸命に働き成長していった。

未感染児童として小鹿島に連れられて来た姜善奉さんであるが、小学校五年生の時にハンセン病を発症。猛烈な刺痛が始まりやがて疼痛に苦しんだ。母親は息子のためにあらゆる薬になるといわれているものを服用させ懸命に看護した。六年生になった頃に激しい痛みは姜善奉さんの手に後遺症を残して治まった。大人達は「やっと終わった。そのように、どこかを駄目にして終わるんだ」「しきりに手を撫でさすり、指を開く練習を涙が出るほどするんだ。そうすればよくなるから」（一七三頁）と励ましの言葉をかけてくれたという。

ハンセン病の激しい痛みの中で中学受験を迎えた。姜善奉さんは見事中学校に合格し、勉学に励み中等課程を終えた。教会関係者は教会活動にも積極的に取り組み指導力を発揮する姜善奉さんに牧師になることを期待したが、姜善奉さんは医療従事者の資格を取り自活することが可能な医学講習所への進学を希望した。彼が中学校を修了した年には医学講習所の翌年募集がないと言われていたが幸いにも募集があり、選抜試験に受かり進学することとなった。

小鹿島での生活を描いた内容で印象深く残ったことに「結ばれた娘」、「結ばれた息子」等といった言葉が入所者達の間で大切にされていたという指摘がある。この心情について「社会から半強制的に追放された人間であることを自覚しているので、ひときわ寂しさを感じる。それゆえに、その寂しさに打ち勝つために、心の通い合うもの同士で父母になることを約束したり、兄弟姉妹になることを約束したりする。それを〈縁を結ぶ〉と言った」（五一頁）と姜善奉さんは述べられている。入所者達は家から見放され孤独の中で生活することを余儀なくされてきただけに孤独から来る寂しさの救いとして人と人との暖かな交わりをどんなに強く求めたかと言うことを物語っているのだろう。「このように結ばれることを願うのは、肉体的にお互いを頼りにし、体調が悪ければ世話をし合うため、そして最も重要なのは、死んだときに死後の処理をしてもらうためであった」（五二頁）と言う指摘にはハッとさせられた。人間は決して一人では生きられない、相互につながり扶助しあって生きていくことがいかに大切なことかを知っているからこその心情と思われる。同室の人を選ぶ時も目が見えない人には目が見える人、足の不自由な人と健康な人を組み合わせるという工夫がなされていたということだ。

## 三　朝鮮戦争と韓老人から聞いた話

一九五〇年六月二五日に始まっ

た朝鮮戦争は小鹿島にも否応なく押し寄せてきた。最初の頃は食料と副食などの配給が中断した。職員の高位の人たちは釜山に避難した。共産主義はイエスを信じる者を殺すと言う話も耳にしたので担任牧師の金正福牧師の避難を決めたが金牧師は信者を守ると言って小鹿島に留まった。やがて、人民軍が島に入って来て職員地帯に人民軍本部がもうけられた。彼らは教会の礼拝堂を教育の場として使い始め、人々を集めて北朝鮮の国歌や「金日成将軍の歌」等を教えた。その後、人民軍は牧師はじめ職員達を高興に連行、何人かが銃殺された。（訳者注三二参照）

島の人々はひたすら祈って時を過ごしたが、この時期の小鹿島は「まさに暗黒の世界であった」ということだった。

韓国軍が国連軍と共に仁川上陸作戦に成功したというビラが撒かれた時、島内の人民軍は撤退し小鹿島は以前と変わらない状態になった。

燃料問題を巡って騒ぎが起きたことがあった。この騒ぎの時、姜善奉さんがある老人を助けたことを知った目の不自由な重患者代表の韓萬東老人から思いもかけない知遇を得ることになり、彼の部屋に住まないかという提案を受けた。韓老人を教導課会議と教会に通う際に案内すること、時々聖書を読んであげることが姜善奉の仕事だった。それ以外は勉強してよいという条件であった。

韓老人と一緒に歩くとき、韓老人から植民地時代の話を聞き、重労働を強制されたことや、村や建物が造られたときの「恨に満ちた事情を知ることとなった」。韓老人の話を聞く中で姜善奉さんは、島は多くの人の恨と涙、肉と骨が埋まった場所であることを教えられた。韓老人は小鹿島で起きた過去の様々な事件の中で、過酷な重労働を強制して怨嗟の的となり入所者により惨殺された三代目園長周防正季のこと、反抗を抑えるために造られた監禁室のこと、従わない者に容赦なく下された処罰のため多くの人が命を落としたこと等、韓老人から教えられた。一九四一年の病院開院二五周年を迎えた数日後の六月一日、周防園長の手先となり強制重労働に駆り立てた者が殺害され、さらに翌年六月二〇日には周防正季も入所者に殺害されるという事件が起きた。その後、園内に建てられた周防園長銅像碑は撤去された。この他に、解放直後、日本人が引き揚げた後に起きた騒擾によって多くの人が犠牲になった話が語られた。

韓老人は姜善奉さんに「お前は私たちがこれまで生きてきたこの程度は知っておいて、一生懸命に勉強するんだ。…元気だった者も重患者になり、ひどい苦しみの坩堝の中でも命を辛うじて保ってきた生き証人なんだ。この話が語り伝えられて、いつかこだまのような応答が聞こえてくるようになれば、うれしいのだが」（一四〇頁）と語り聞かせたのである。韓老人が姜善奉さんに伝えたかった思いを考えると胸が熱くなる。ハンセン病に罹ったというだけで生涯隔離し人間扱いしないような理不尽な処遇を受ける自身の境遇を思うと、どの入所者達も韓老人と同じ思いだったことだろう。

朝鮮戦争が終わり国連軍や米軍が入ってくる頃には小鹿島にも物資が潤沢に出回るようになった。シラミや南京虫は米軍から配給されたDDTで瞬く間に駆除された。また、宣教師達も大勢小鹿島に入ってきた。

ところが、解放後も日帝時代の管理方式は変わることはなかった。職員と園生が対話するとき、四、五歩の距離を保って立ち、顔を背けて手で口を覆って話さなければならなかった。たとえ相手が給仕であっても先生と呼ばなければならないほどハンセン病者は人間扱いされていなかったということだ。そのような中で入所者達の希望は天国にあった。神とイエスが友、親、兄弟姉妹であり、永遠の救い主であった。

園では結婚する時は事務室に申告した後に断種手術を受けなければならなかった。この決まりは日帝時代に出来たものなのに、解放

後も続いていた。幾組かの結婚式をあげた人々が断種手術を前にしてどのようにそれから逃れるか、それを前に島からの脱出を図り命を落としたかについて書かれている。姜善奉さんにとってもご自身のことでもあったことが赤裸々に書かれている。

## 四　小鹿島からの脱出

一九五八年三月、姜善奉さんは小鹿島更生園付属医学講習所六期生に合格した。医学生が四年かけて終える課程を二年で終えるだけに必死に勉強しなければならなかった。その頃姜善奉さんは交際していた女性がいた。結婚を考える息子に対して母親は時間をかけて考えるように言った。「適当な定着地に行って結婚しなさい」（一八九頁）「宝物のようなわが子の体に傷をつけて断種手術なんてさせるわけにいかない」（一九〇頁）とも。断種手術を巡って復元できる方法があるというアドバイスを受けた姜善奉さんは母親を説得し、結婚した。結婚すると断種手術を免れることは出来なかった。このことについて姜善奉の率直な思い―私には男としての権利がないのか、怨みと不安、自分が選んだこと、いまさらどうしようもない等の思いが語られている―（一九六・七頁）。

医学講習所での二年間が終わると、外科に配属された。その後、歯科の主看護員に配属された。自身で歯科の器具を購入して義歯の製作を自宅で練習することとした。

一九六一年五・一六軍事クーデターが起こった。同年七月、小鹿島更生園は国立小鹿島病院に改称した。同年八月、院長として趙昌源が赴任してきた。趙院長は院内の改革に着手し、定着村を建設して新しい暮らしの基盤を作らねばならないと五馬島干拓事業を提唱。過去自分たちに課せられた強制労働は「肉体の崩壊と早まった死期のほかには何もなかったこと」を知っている入所者たちはこの提唱に対して冷やかだったが、やがて院長の提唱に従わざるを得なくなった。院長は自らが開拓団の団長となりを事業が始まった。姜善奉さんは歯科主看護として技術が熟達した頃であった。そのような頃に人事異動があり耳鼻咽喉科主任に発令された。開拓団の医療部担当者の人事異動もこの時期にあったので開拓団の医療部担当に志願し、選抜されて五馬島に行くこととなった。初めて見る陸地につながる五馬島は、いつも見る孤立した小鹿島とは違い、海の水が引けば陸地、海水が入れば島ではあるが陸地と同じに見えた。姜善奉さんが五馬島に来た時は工事の着工前だったので暇だった。工事責任者に数日くらい外出したいといってみると簡単に承諾してくれた。姜善奉さんはこうして外出許可をもらって島を出た。五馬島に帰ることなく、この外出が小鹿島との別れとなった。

五馬島干拓事業は一九六四年三月、趙院長が新しい赴任地に移つされ、小鹿島の人たちは五馬島から引き上げた。七月二四日、この事業は全羅南道に移管され小鹿島・五馬島干拓団の手を離れた。過酷な干拓工事に駆り立てられた小鹿島の人たちは汗と血の結晶を手にすることなく多くが「干拓地の土を一度も触ることなく、すでに万霊堂の主人になっていた」（二四八頁）。

「臨時外出許可書」を持ち、休暇を取って姜善奉さんは姉が住んでいる安義面にある定着村に向かった。五馬島から船で鹿洞に渡り、鹿洞から順天市にはバスに乗る旅である。はじめて乗ったバスであった。姜善奉さんの隣に座る人は彼に気を遣うこともなく座り、体と体が触れあっても気にすることはなかったことに驚いた。さらに、警官がバスに乗り込み、乗客に身分証明書の提示を求めた。姜善奉さんは証明書を持っていなかったので困惑したが、二、三人が提示し終わると警官がバスから降りたので一息ついたということだ。バスの中で自分の隣に何のためらいもなく引っ切りなしに他人が座るので、「自分が小鹿島から出てきたことなど、いつの間にかどこか

に飛んで消えてしまい、私も社会の一員になれるという自信を持った」（二五二頁）。

姜善奉さんが訪ねていく姉であるが、ハンセン病に罹っていないが、母親がハンセン病と言うことで、定着村に住む男性と結婚していた。姉宅に泊まり、そこで医学講習所出身者の求人のある村を探すこととした。姉の近くに住んでいる母親の実家の人たちは姉とも疎遠になっていることを聞き、姜善奉さんは母の一族が住む地域で自身が住むことをあきらめると共に重い決心をした。それは「小鹿島も忘れることとした」（二六八頁）というものだった。この決心を告げる手紙を母と妻に差出人を姉の名前で書き出すこととした。そして、一日でも早く独立するために歯科器具を購入する費用を貯めるために物乞いに出かけることになった。

## 五　定住の地を求めて

従兄から言われた、朝四時に出発、ご飯を入れてもらう飯盒と匙、それと食料をもらう布袋一つを準備して「乞食世界に入門」した。初日は「物乞いに来ました」と言う言葉すら口から出なかった。一緒になった人からは誰もがそんなものだと慰められもしたが、もう一人は「ずっと楽に暮らしてきたからそうなんだ。もっとたくさん泣いて腹を立てたら、がめつくなるさ。そういうがめつい人間になるには、時間が必要だ」と言われもした。夜、星空を見ながら寝るとき〝あのまま小鹿島にいたら仕事もあり、何の心配もなかったのに〟「しかし、いまさら後悔してもあとの祭りだった。」（二七七頁）

姜善奉さんの胸中には〝歯科の治療器具と義歯製作の器具さえ買えば、この乞食学校を中退、あるいは卒業することができる。……一日でも早く目標を達成しよう〟（二八〇頁）と言う思いで一杯になった。

ある程度のお金が貯まったので、姜善奉さんは釜山に歯科器具の買い出しに出かけることとなった。その後小鹿島で別れたきりの妻と再会し、妻の実家のある河東に向かった。妻の実家のある村では義歯を作る人が居たので他の村を探すこととなり晋州班城（訳者注八七参照）に向かった。そこにも医者がいたのでほかの地域を探すこととなり咸安郡郡北面黎明村（訳者注八八参照）に行った。島を出た人や父の友達がいたが、土地はあまり豊かではなさそうに見えたのであまり気が進まなかった。しかし、入園費を免除して姜さんたちを受け入れようということになった。姜善奉さんはうれしい気持ちをどのように表していいのかわからず、「ただただ頭を下げるだけであった」。早速妻に知らせ、自分は逃亡者の身だから島には行けない。妻に島に行って母にこのことを知らせてくれと言って小鹿島に帰した。

医療部長がいる村だから姜善奉さんにはやる仕事がなかった。家を買うためにもお金を貯めなければならない。そこで、また物乞いに出かけることとなった。ところが甲辰年麦凶作と言われる年だったので何の収穫もなかった。そのような折、村の書記と財務の仕事をしてほしいと村から言われた。毎日ではないので歯医者の仕事をしながらでいいと言うことでもあった。やがて、村の医療部長が退任して村を出たので医療部長の仕事もすることとなり、前任の医療部長の住宅に住むこととなった。

小鹿島を出て生活が落ち着いた頃、姜善奉さんは母に会うために島に帰ることを決心した。見つかれば監禁室行きを覚悟しての帰島であったが、久しぶりに見る母は非常に喜びそして息子に天国で一緒に住まなければならないから信仰生活をしっかり持つようにと語りかけた。

姜善奉さん母子の別れは「お母さんをお迎えにくるつもりです。ではもう行かねばなりません。何の心配もなさらないでください」、「お母さんも長生きしてください。またきますから」という姜善奉さんの声と母の杖をつく音が中央里重患者病棟に響くばかりであった。

## おわりに

姜善奉さんの幼年期から小鹿島から脱出して定着村での生活が始まるまでの自伝を通して解放後の韓国では隔離政策は取られなかったとはいえ小鹿島の人たちが外の世界に出るには大きな壁があったことがわかる。ハンセン病の人たちが「物乞い」でもって生活費を稼ぐことは日本の統治下だけではなく戦後も行われていたことや「物乞い」のやり方にも工夫が必要であるという話など非常に興味深かった。また、解放後も小鹿島では日本統治下で実施された断種が行われていたことにハンセン病に対する偏見の根強さを感じさせられた。

本書は戦後の時期のみならず、一九一〇年、日本が朝鮮の植民地支配を始めた時期からの小鹿島の歴史についても教えられることが多くある。それだけではなく、小鹿島入所者達の生活の実態や精神世界についても深く知ることが出来る。

ハンセン病に罹患した人々が家族や友人からの断絶の中で生活していく上で心の支えとなったものが何であったか、そのようなことについて考えさせられた。とりわけ、キリスト教の宗教活動についてあまり本文で触れなかったが、入所者の生活に大きなウエイトを占めていたといえるだろう。

牧師さんの祈りの祝福の言葉を聞いた母が姜善奉さんに話しかけた次のような言葉、「ほんとうによい説教で、恵みをたくさん受けたよ。お前と私は死んだら必ず天国で会い、新しい姿で生きようね」（六九頁）というお母さんの言葉であるがキリスト教への信仰が今の生活を生き抜くために「天国」の存在を信じ、「天国」では今苦しめられている病気から解放されていたいという願いであり今を生きる希望を意味しているように思えた。ハンセン病に対する偏見の根強さがいかに患者を苦しめてきたかを改めて強く感じさせられた。さらに、本書で事実の重さと共に語られている言葉の重さに深く感じさせられるものがあった。そのような箇所については、彼らからしか出てこない言葉や内容があったので語りを引用させてもらい、引用した箇所については本書の頁を記入しておいた。こういった点からも本書は歴史的事実を知るだけでなくハンセン病に罹った人々の心のうちの秘められた思いについて深く考えさせられるものといえるだろう。語りをはじめ詳細な注などで読者に読みやすく翻訳された訳者川口祥子さんのご苦労に敬意を表したい。

注1　詩集の紹介文でハンセン病に罹った人を韓国では「ハンセン人」と紹介したが、この表現について近年、姜善奉さんは異を唱え、ハンセン病患者・ハンセン病回復者と呼ぶことを提唱されている。訳者注の最後の「ハンセン病患者・ハンセン病回復者という用語について」を参照

注2　一九七六年出版されベストセラーとなった。日本では、姜信子訳により『あなたたちの天国』という題で二〇一〇年　みすず書房より刊行されている。

注3　エピローグでの訳者の注によると「ハングルでは「天国」「賤国」はどちらも천국（チョングク）と書き、当然、発音も同じである。」とある。日本語では天国と賤国は真反対の言葉のように思える。それがハングルでは同じものを指すというのは一体どういうことなのだろうか。このことについて詳細に訳者が書かれたものがあるので参照にしてほしい。「姜善奉著『小鹿島　賤国への旅』　川口祥子」『むくげ通信』　三一七号（二〇二三年三月二六日）

（解放出版社刊　二〇二三年二月　二五〇〇円＋税）

論・規制・回復をめぐる社会学』西倉実季
◇じんけん切り抜き帳（2022.12.10～2023.1.10）

**■部落解放研究所紀要 29■**

（広島部落解放研究所刊 2022.12.15）200円
◇小森龍邦 ―その思想と行動―　岡田英治
◇「福山市人権尊重のまちづくり条例」制定の経緯と今後の課題 ―差別のない誰もが真に大切にされる社会実現のために―　小山友康
◇聖典解釈試論 ―解放運動の問題提起に正対する検証のありかた―　沖　和史
◇大阪の新自由主義教育的改革批判　足助安章
◇公共空間を生きる人々 ―長居公園テント村の事件をもとに―　渡辺拓也 ほか

**■部落解放新聞 381■**

（部落解放同盟全国連合会刊 2022.12.10）200円
◇11月、12月狭山事実調べ連続要請行動に決起

**■部落解放新聞 382■**

（部落解放同盟全国連合会刊 2023.1.10）
◇狭山の事実調べ・再審かちとろう！ 軍拡、農地強奪―岸田の暴走をとめよう！ 村上久義
◇示現社・宮部龍彦への公開質問状6

**■部落解放ひろしま 105■**

（部落解放同盟広島連合会刊 2023.1.1）1,000円+税
◇[主張] 部落解放運動は続いていく
◇[特集] 広島県水平社100年を迎えて
・近代被差別部落と広島県水平社の100年　小早川明良
・県連再建後の解放運動(概略)　岡田英治
・県水平社100年と広島の同和教育運動　森咲賢
◇[投稿]
・「全国部落調査」復刻版裁判の現在　芝内則明
・狭山裁判の取り組み　武藤貢
・女性差別撤廃の取り組み　大宮弘子
・差別のない社会づくりへ ―差別禁止法をつくろう！―　谷川雅彦
◇[うつしみ] 解放運動に学んで　都築寿美枝

**■紀要 部落問題研究 243■**

（部落問題研究所刊 2022.12.20）1,163円
◇[論文] 人見亨と未発の「徹底的融和教育」梅田修
◇[書評シンポジウム] 飯田直樹著『近代大阪の福祉構造と展開―方面委員制度と警察社会事業―』をめぐって
[報告1] 近代日本の社会事業と警察　高岡裕之
[報告2] 主に「医療の社会史」の観点から　廣川和花
[報告3] 方面委員制度とセツルメントの「思想的基盤」をめぐって ―方面委員制度の「個別性」と小河滋次郎の「セツルメント論の影響」を中心に―　加美嘉史
[筆者応答] 三氏の拙著評論に答える　飯田直樹
◇[書評]
・飯田直樹著『近代大阪の福祉構造と展開―方面委員制度と警察社会事業―』井ノ元 ほのか
・藤本清二郎・竹永三男編『「行倒れ」の歴史的研究―移動する弱者とその救済』1 ―前近代の日本における「行き倒れ」関係論文を中心に―　菊池勇夫
・藤本清二郎・竹永三男編『「行倒れ」の歴史的研究―移動する弱者とその救済』2 ―朝鮮における行き 倒れ関係論文を中心に― 樋口雄一
◇[時評] 産学官連携の同時代史 ―国際卓越研究大学問題の深層― 駒込武

**■Rights 283■**

（鳥取市人権啓発情報センター刊 2022.12）
◇人権フォーラム2022・人権のつどい２０２２年度「ぼくは挑戦人だ」報告

**■Rights 284■**

（鳥取市人権啓発情報センター刊 2023.1）
◇2023年は、世界人権宣言採択75周年関連記事

**■Rights 285■**

（鳥取市人権啓発情報センター刊 2023.2）
◇第99回人権教育保育研究部会 生徒に学ぶエンパワメント改革　西成高校の取り組み

**■リベラシオン 188■**

（福岡県人権研究所刊 2022.12）
◇2022年度啓発担当者のための人権講座「福岡県におけるインターネットモニタリングの実施状況について」　福岡県人権・同和対策局調整課
◇[図書紹介]　関儀久著『感染症と部落問題 ―近代都市のコレラ体験―』石瀧豊美
◇福岡豊前の水平運動・農民運動指導者 田原春次 1 ―松本治一郎宛書簡の検討を通して― 小正路淑泰
◇「ムラ」の文化研究部会40年間の歩み　糸島市人権・同和教育研究会「ムラ」の文化研究部会
◇人権コラム2「私たちの結婚式」 松崎真治

**■和歌山研究所通信 79■**

（和歌山人権研究所刊 2023.1）
◇和歌山県水平社創立100周年と今後の部落解放運動について　宮本修作

吾・矢島大輔　ほか

**■部落解放 834■**

（解放出版社刊 2023.2.10）600円+税

◇[特集]　大阪から問う、特別支援教育の現在

‣なぜ、私たち抜きで私たちのことを決めるのか？②　渡邊充佳監修

‣座談会 インクルーシブ教育ってなんだろう ―大阪の現場から改めて考える、共に学び合える学校のカタチ―　渡邊充佳／前田 蓮／小林 葵／羽原裕輔／奥田佳代

‣Z世代の子どもと考えるインクルージョン　堀家由妃代

◇[インタビュー] 水平社宣言を琉球語に訳す ―彫刻家金城実さんに聞く―　川瀬俊治

◇黒人の叫び、ラップ・ミュージックは現代社会の預言か ―日本基督教団阿倍野教会・山下壮起牧師に聞く　藤田 正

◇第1回 西光万吉文化・平和活動奨励賞受賞団体決定！　光座のある風景　室原正孝

◇偏見差別をなくしてほしい ―ハンセン病問題にみる人生被害23―「潜伏期間が長い」の言葉に呪縛されて　福岡安則

◇[部落解放史の最前線4] かわた身分の成立と歴史的背景　寺木伸明

◇[水平線] 関東大震災朝鮮人虐殺から100年 外村 大

◇[人権いろいろ] 死刑はなくせる　福島みずほ

◇[メディア批評] そら違うで　口をふさぐ者はだれか　林 美子

◇[IMADRアップデイト] 杉田水脈議員の「ヘイトスピーチ、許さない。」　小森 恵

◇[映像フリースペース] 貴族や特権階級のものであった競馬を庶民のものにした主婦の話 ―イギリス映画「ドリーム・ホース」―　白井佳夫

◇[東京音楽通信] 自らの傷を、人として、歌に　―映画『ジョン・レノン～音楽で世界を変えた男の真実～』　藤田 正

◇[子ども・教育・自由ノート] 実り豊かな最終章のために　園田雅春

◇[ダイバーシティの今] ウブントゥ！　虐待に至ってしまった父親たちの回復　森田ゆり

◇ヘイト・スピーチを受けない権利 デンマークの反差別法・政策　前田 朗

◇[本の紹介] 部落解放同盟大阪府連合会編『大阪の部落解放運動100年の歴史と展望』‣歴史編 通史としてのゆるぎない存在感　渡辺俊雄

‣展望編 第4期部落解放運動の提起と「地域共生社会」実現への展望　谷元昭信

◇[本の紹介] 解放歌に込められた思い、歌い継がれる思いを伝え続ける

‣森山沾一・和智俊幸・横田 司・坂田美穂著 福岡県人権研究所刊『殉義の星と輝かん―百年生きる「解放歌」と柴田啓蔵』　外川正明

◇じんけん切り抜き帳（2022.11.10～12.10）

**■部落解放 835■**

（解放出版社刊 2023.3.10）600円+税

◇[特集] 人権と向き合う博物館

‣〈萱野茂二風谷アイヌ博物館〉父・萱野茂が残したアイヌ文化　萱野志朗

‣〈国立ハンセン病資料館〉ハンセン病問題と具体的に出会うために　西浦直子

‣〈高麗博物館〉在日韓国・朝鮮人の人権問題に関する展示と取り組み　高麗博物館人権チーム

‣〈水平社博物館〉水平社創立の理念を未来へ　駒井忠之

‣〈水俣病考証館〉「墓標」化に抗う博物館　葛西伸夫

‣〈ひめゆり平和祈念資料館〉毛戦争からさらに遠くなった世代へ―ひめゆり平和祈念資料館の次世代継承の取り組み―普天間朝佳

◇[反差別の論理－マイノリティの復権2]　村崎義正著『猿まわし上下ゆき』　河村義人

◇[リレーエッセイ]　水平社100年に想う19・最終回 ―私のモヤモヤと部落問題の地平―　佐藤雄哉

◇偏見差別をなくしてほしい―ハンセン病問題にみる人生被害24 ―生まれ変わっても、父の子に生まれたい―　福岡安則

◇部落解放史の最前線5　近世身分制度の真実と身分差別の諸形態　寺木伸明

◇[水平線]　川口君を忘れない映画　代島治彦

◇[人権いろいろ] 汚染土の再利用　福島みずほ

◇[東京音楽通信] 福田村事件は100年前の出来事なのか？ ―関東大震災が問いかけるもの― 藤田 正

◇ヘイト・スピーチを受けない権利　貧困の強制と差別の重畳 ―在日朝鮮人と生活保護―　前田 朗

◇[本の紹介] 河内水平社創立100周年記念事業実行委員会編『あゆんだみち』

‣識字文集『あゆんだみち』発刊にあたって　田村賢一

‣52年のあゆみ、これから育むことば　森 実

◇[本の紹介] 山本崇記『差別研究の現代的展開－理

え学ぶ人権（前編）― 松村元樹
◇私の沖縄問題 46「かなさん沖縄」発足の経緯と活動内容　仲間久美子
◇[連載] 本の道草 107 ―わくわくを買う―　冠野 文

**■ひゅーまん らいと 443■**

（部落解放・人権政策確立要求京都府実行員会刊 2023.1.1）
◇2002年差別撤廃・人権確立京都集会(12.7)関連記事
◇部落解放・人権政策確立要京都府実行委員会第36回大会(12.9)関連記事
◇部落解放京都地方共闘会議第45回定期総会(12.5)関連記事
◇差別戒名墓所で慰霊法要　など

**■ひゅーまん らいと 444■**

（部落解放・人権政策確立要求京都府実行員会刊 2023.2.1）
◇京都私立大学人権問題懇話会の学長懇談会オンライン開催。「ウトロに出あう」と題し、ウトロ平和祈念館の田川館長講演。
◇第70期第4回京都人権文化講座（2022.6.27）「エンパワメントが連鎖する食堂～在日アジア人女性の活躍の場を～」講師 黒田尚子さん　紹介記事

**■部落解放 832■**

（解放出版社刊 2023.1.10）600円+税
◇[特集] 大阪から問う、特別支援教育の現在
- なぜ、私たち抜きで私たちのことを決めるのか？①　渡邊充佳
- はじめに　―共に生きようとする者たちの叫びが聞こえるか　渡邊充佳
- 障害の「人権モデル」からみた特別支援教育の根本問題　尾上浩二
- ともに学ぶ子どもたちの姿から親の私が学んだこと 佐々木サミュエルズ純子
- 「与える」のではなく「奪わない」 常清麻紀

◇[新連載]　反差別の論理―マイノリティの復権 1 ―『定本北條民雄全集（上下)』　河村義人
◇ウトロ放火事件判決とヘイト犯罪との闘い―反差別規範の積み上げの先にある差別認定― 中村一成
◇国連障害者権利委員会からの日本政府へ初めての勧告（総括所見）について　崔 栄繁
◇2つの国策―沖縄基地問題とハンセン病問題と闘う ―ひとりの土木技術者として―　奥間政則
◇偏見差別をなくしてほしい―ハンセン病問題にみる人生被害22 ―愛児を養護施設に預けて再入所―　福岡安則
◇部落解放史の最前線3『かわた身分（被差別部落）の起源』 寺木伸明
◇[水平線] 夜間定時制高校のこと　鳥山 洋
◇[人権いろいろ] 自由権規約委員会の勧告　福島みずほ
◇[メディア批評] そら違うで　分断をあおるSNS、政治を変える若者　西村秀樹
◇[IMADRアップデイト]　死刑制度と日本　ほんとうにこれでいいの？ 小森 恵
◇[映像フリースペース] 悪夢のような人間誘拐 ビジネスをめぐるメキシコの不条理映画　―ベルギー＝ルーマニア＝メキシコ合作映画「母の聖戦」―　白井佳夫
◇[東京音楽通信]　ビヨンセは「Nワード」をどう使ってみせたか ―被差別の人たちを叱咤激励する新作『ルネッサンス』―　藤田 正
◇子ども・教育・自由ノート／「常識」を少し問うことから　園田雅春
◇ヘイト・スピーチを受けない権利／国際自由権委員会の反差別勧告　前田 朗
◇ダイバーシティの今／「発達障害」か「脳神経多様性」か　森田ゆり
◇[本の紹介] 意図的に固定化された先住民族のイメージ―ブルース・パスコウ著　友永雄吾訳『ダーク・エミュー アボリジナル・オーストラリアの「真実」―先住民の土地管理と農耕の誕生』　松島泰勝
◇[かるたの紹介] 楽しみながら子どもの権利が学べる ―甲斐田万智子監修『世界の子ども権利かるた―みんなで知ろう！ わたしたちのチャイルドライツ』栄留里美
◇[じんけん切り抜き帳]（2022.10.10～11.10）

**■増刊号 部落解放 833 部落解放･人権入門2023■**

（解放出版社刊 2023.1.25）1,000円+税
◇[第53回部落解放・人権夏期講座 報告書]
[全大会]
- メディアがみた部落問題の現状 ―全国水平社創立100年―　西日本新聞「人権新時代」取材班
- 水平社100年とこれからの部落解放運動　赤井隆史　ほか

[分科会]
- 誰もがともに生きていけるまちづくり―フルインクルージョンをめざして―　玉木幸則
- 採用選考における就活生のＳＮＳ調査　市原研

**■地域と人権 京都 877■**

（京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2023.1.15）150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革64 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史第6回　丹波正史

**■地域と人権 京都 879■**

（京都地域人権運動総連合/地域と人権京都市局刊 2023.2.15）150円

◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革66 川部昇

◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史第7回　丹波正史

◇全国水平社100周年記念集会(1.14)報告

**■であい 729■**

（全国人権教育研究協議会刊 2022.12.25）160円

◇第73回全国人権・同和教育研究大会11月26日(土)～27日(日)奈良市 報告

◇第73回全国人権・同和教育研究大会 総括(前編)

◇[人権文化を拓く]「人権」ってふかいなあ―「子どもの権利条約」を前に立ち止まる　田中文子

**■であい 730■**

（全国人権教育研究協議会刊 2023.1.25）160円

◇第73回全国人権・同和教育研究大会 大会総括（後編）

◇第73回全国人権・同和教育研究大会 分科会まとめ 全国人権教育研究協議会

◇[人権文化を拓く302] メディア・リテラシーをすべての人に　西村寿子

**■なら Hu-RightsNews 306■**

（奈良人権部落解放研究所刊 2023.1.1）

◇第25回人権ウォーク「全国水平社創立100周年 水平社発祥の地を訪ねる」(12/7)報告

**■ヒューマン･アルカディア 91■**

（福岡県人権啓発情報センター刊 2022.12.15）

◇[寄稿] 差別が起こる仕組みを社会心理学の観点から考える　村山稜さん

**■ヒューマンJournal 243■**

（自由同和会中央本部刊 2022.12）500円

◇[要望書]同和問題の早期完全解決に向けた要望書

**■月刊 ヒューマンライツ 418■**

（部落解放・人権研究所刊 2023.1.10）550円

◇「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」からの報告　内田博文

◇部落問題・人権問題意識調査からみえてくること ―部落問題を解決するための学習の課題 内田龍史

◇埼玉県における教職員への意識調査結果から見えてくること　石川享助

◇学校現場での部落問題学習 ―すべての子どもの自己解放のために― 土田光

◇言葉と写真で世界をみつめる　第21回　早急に設置の求められる「国内人権機関、そして「人権」への理解 佐藤 慧

◇[貧困・子ども・人権] 第43回　共同親権制度の問題性―アンケート調査の結果から見えてくること 田島望

◇[わたしの視点] メディアの現場から第80回　百周年を迎える関東大震災　渡辺延志

◇アイヌ伝統文化の今日的継承 ―平取町立二風谷アイヌ文化博物館の取り組み 山本 雄

◇識字運動の担い手たちが語る 第25回　文字を知っていろんな人とつながった〔後編〕松根洋子さん（新宮識字学級） 編集：菅原智恵美

◇人権教育の実践の現場から（94）すべての生徒が安心して、自分らしくいられる学校づくりのために（前編）箕面市立第三中学校　益住麻衣

◇[新連載]「困りごと」を抱えた人々 ―鳥取県調査から見えてくるもの1―　谷川雅彦

◇泰司と元樹の書きたいざんまい14 ―多くの人たちの力で「部落探訪」動画約200本を削除させた！

◇[連載] 走りながら考える 257　―「ビジネスと人権に関する指導原則」を実践する―　北口末広

◇[連載] 本の道草106 ―そんなに簡単に割り切れるかボケ！　冠野 文

◇[連載] 映画を通して考える「もう一つの世界」映像のなかの在日8 中村一成

**■月刊 ヒューマンライツ 419■**

（部落解放・人権研究所刊 2023.2.10）550円

◇[識字運動の担い手たちが語る 26] 識字は楽しい。手話もある。〔前編〕本多貞江さん　編集：森 実

◇[人権教育の実践の現場から 95] すべての生徒が安心して、自分らしくいられる学校づくりのために（後編）益住麻衣

◇[貧困・子ども・人権 44] アイヌ文化を尊び学ぶことの意味 ―モシリナァスコーレのめざす学校観とは―　星野人史

◇[連載]「困りごと」を抱えた人々 ―鳥取県調査から見えてくるもの２―　谷川雅彦

◇泰司と元樹の書きたいざんまい 15 ―アニメで考

**■季刊 人権問題 410■**
（兵庫人権問題研究所刊 2023.1.31）1,000円
◇[特集1] 様々な視点で憲法を考えよう
◇[特集2] 教育をめぐる様々な動向
◇[特集3] 全国水平社創立100周年記念
‣学生部落研から解放運動へ 保守の人たちが参加した「正常化連」 前田延行
‣国民融合 東播大学習会を開催 ―社会問題としての部落問題は解決したという到達点を市民みんなで共有するために―　前田泰義

**■真宗 1427■**
（真宗大谷派宗務所刊 2023.2.1）
◇[解放の教学16]「是旃陀羅」問題に聞く

**■真宗 1428■**
（真宗大谷派宗務所刊 2023.3.1）
◇身元調査は、しない！ させない！ ゆるさない！「身元調査お断り・過去帳閲覧禁止運動」の再確認を！
◇[解放の教学17]「是旃陀羅」問題に聞く

**■信州農村開発史研究所報 162■**
（信州農村開発史研究所刊 2022.12.1）
◇「1957年頃の小諸市民の部落観 1・2」を読んで 島田一生
◇もろさわようこ著「新編 おんなの戦後史」の紹介 齋藤洋一

**■崇仁～ひと・まち・れきし～ 15■**
（崇仁発信実行委員会刊 2023.3.5）
◇[特集] 崇仁のお店＆周辺のお店～大学・高校移転を通して～

**■スティグマ 318■**
（千葉県人権センター刊 2023.1.10）500円
◇[特集] 子どもの生き辛さから始まる学校・社会の再生を～不登校に於ける子どもの人権～ 下村小夜子
◇[連載] 共に育つ教育「子どもたちのちながりは、大人の不甲斐なさを補ってくれる」 佐藤陽一

**■スティグマ 319■**
（千葉県人権センター刊 2023.2.10）500円
◇[特集] 差別とは何か、偏見とは何か16　千葉の部落に生きた先輩の語り1　福岡安則
◇[投稿] 今から私の過去を話そう

**■栃木県連ニュース 5■**
（部落解放同盟栃木県連合会刊 2022.12.20）
◇鹿沼市 人権のつどい(12/10)報告
◇関東・甲信越ブロック中央解放学校(11/20)報告
◇栃木県若手職員が部落問題研修(10/18)

**■地域と人権 1239■**
（全国地域人権運動総連合刊 2022.12.15）147円
◇全国水平社創立100周年「到達点と課題とは」1 西尾泰広
◇各地からの報告

**■地域と人権 1240■**
（全国地域人権運動総連合刊 2023.1.15）147円
◇憲法の普遍的な価値 伝えよう　田中優子
◇全国水平社創立１００周年　到達点と課題とは2 西尾泰広
◇ユーチューブの「部落探訪」動画一斉削除　ほか

**■地域と人権 1241■**
（全国地域人権運動総連合刊 2023.2.15）147円
◇全国水平社創立100周年記念中央集会(1.14)報告
◇全国水平社創立100周年 到達点と課題とは 3
◇愛知県水平社創立100周年記念セミナー(2022.11.10)関連記事

**■月刊 地域と人権 465■**
（全国地域人権運動総連合刊 2023.1.5）
◇全国水平社百周年 解放運動100年の歴史10 丹波正史

**■月刊 地域と人権 466■**
（全国地域人権運動総連合刊 2023.2）147円
◇全国水平社創立百周年 部落解放運動100年の歴史第10回2　丹波正史
◇地域人権ネット主催第13回人権塾 どうなるこれからの人権と民主主義―ウクライナ問題、コロナ禍問題、安倍元首相銃撃死事件の中で―

**■地域と人権 京都 875■**
（京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2022.12.15）150円
◇11・3憲法集会in京都 報告
◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革62 川部昇
◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史第6回　丹波正史

**■地域と人権 京都 876■**
（京都地域人権運動総連合/地域と人権京都支局刊 2023.1.1）150円
◇戦後京都市の部落解放運動と同和行政の沿革63 川部昇
◇全国水平社100周年 部落解放運動100年の歴史第6回　丹波正史

**■狭山大運動 7■**

（狭山事件の再審を実現する大運動刊 2023.1.10）

◇石川一雄さん新年メッセージ

◇狭山現地調査報告集会(10.30) 講演「狭山の部落史」3 本田豊

**■人権と社会 クリップ・ライブラリー 422■**

（NCL刊 2022.12.15）1,400円

◇今問う部落差別〈東京新聞 2022.10.24〉

**■人権と社会 クリップ・ライブラリー 424■**

（NCL刊 2023.1.15）1,400円

◇[さらされた部落リスト]

‣法廷編14 これは「勝訴」なのか！〈西日本新聞 2022.2.23〉

‣模索編15「わたし」の言葉で発信〈西日本新聞 2022.2.24〉

‣模索編16「退場」促したのは…〈西日本新聞 2022.2.25〉

‣模索編17 タブー視をやめた番組〈西日本新聞 2022.2.26〉

‣模索編18「これはあかん」行政も〈西日本新聞 2022.2.27〉

‣模索編19 差別と闘える「武器」を〈西日本新聞 2022.2.28〉

‣終わりに20 言うかどうかは自分で〈西日本新聞 2022.3.1〉

◇日本社会文学会「差別と文学」テーマに秋季大会〈西日本新聞 2022.11.9〉

◇差別と闘う 殉義の星に〈朝日新聞 2022.11.24〉

◇日本語学べる教室がない〈日本経済新聞 2022.11.11〉

**■人権と部落問題 967■**

（部落問題研究所刊 2023.1.1）660円

◇[連載] 八鹿高校事件から半世紀 第4章 日本教育の青春と同和教育16 部落差別と教育 東上高志

◇人はみな 人と接して 人となる5 山田稔

◇世界のくらしと文化 B面の日韓越境史2 鹿児島：「沈家４００年」の誇り 山口祐香

◇[現地報告] 全国水平社創立１００年の歴史に学び異常な県下の同和行政終結の闘いを―大分県― 用松律夫

◇[文芸の散歩道] 糾弾されていた中里介山の『大菩薩峠』 秦重雄

**■人権と部落問題 968■**

（部落問題研究所刊 2023.2.1）660円

◇[連載] 八鹿高校事件から半世紀 第4章 日本教育の青春と同和教育17 部落差別と教育実践 東上高志

◇[特集] 在日コリアンの自由と平等

‣「ワタシタチハニンゲンダ！」を制作して 高賛侑

‣ジェンダーと民族の複合差別について ―在日コリアン女性実態調査から― 李月順

‣ウトロ地区の歴史とウトロ平和祈念館 金秀煥

‣引っ越しできない隣国の平和と友好を追求して60数年 ―日本コリア協会・大阪― 飯田光徳

◇第60回部落問題研究者全国集会（2022年10月22日～23日）の報告

全体会 大森実／歴史Ⅰ 横山百合子／歴史Ⅱ 吉田隼人／現状分析・理論 河野健男／教育 石田暁／思想・文化 松井活

◇[動向] ‣全国水平社創立100周年を記念して 国民融合東播大学習会を開催 前田泰義

‣「愛知県水平社創立１００周年記念セミナー」を開催 岡本幸信

◇[文芸の散歩道] ヤングケアラーだった川端康成 十六歳（十四歳）の日記 福地秀雄

◇[連載] 人はみな 人と接して 人となる（6）山田稔

**■人権なら 145■**

（NPOなら人権情報センター刊 2023.1.1）

◇ハンセン病回復者等支援者養成講座(5講 12/5)報告

◇水平社宣言を金城実さんが琉球語に 12/3 西光寺で披露

**■人権なら 146■**

（NPOなら人権情報センター刊 2023.2.1）

◇ハンセン病回復者等支援者養成講座(12.12)報告

◇杉田水脈議員のヘイトスピーチを許すな！奈良県抗議行動(12.26)報告

◇NPO奈良人権情報センター 人権に関わる相談(電話・ホームページ・面談)受付紹介

**■人権21 調査と研究 276■**

（おかやま人権研究センター刊 2023.1.15）

◇「社会的資本」を守り発展させ豊かで優しい社会の実現を 守田敏也

◇シリーズ時評2 ポピュリズムとは何か・再考 難波達興

◇公立夜間中学開設の灯を 藤原準三

◇外国人労働者(技能実習生制度)から見える衰退国ニッポンの姿 弓田盛樹

◇岡山県地域人権問題研究集会の再開をめざして 小畑隆資

実」―水平社創立100年、部落問題は今―　発題者 川口泰司さん
‣対話集会に参加して　長崎壮
◇冤罪狭山事件 狭山集会　マグダレナ美千代

**■カトリック部落差別人権委員会ニュース 202■**

（日本カトリック部落差別人権委員会事務局刊 2023.1）
◇狭山事件の再審を求める市民集会が開かれる―東京高裁は鑑定人の証人尋問と万年筆インクの鑑定実験の実施を―　広川二六
◇まず知ることから　HIV／エイズ支援の現場からのメッセージ２　生島嗣

**■キリスト教社会問題研究所 71■**

（同志社大学人文科学研究所刊 2022.12）
◇[資料]『人道』（家庭学校）復刊103号、1941年12月15日　関口寛

**■京都部落問題研究資料センター通信 70■**

（京都部落問題研究資料センター刊 2023.1.25）
◇差別の歴史を考える連続講座 第５回『近代京都の都市周縁と祭礼―神輿は誰が舁くのか―』講師 中西仁さん 講演要旨
◇差別の歴史を考える連続講座 第６回『初期社会主義と部落問題』講師 福家崇洋さん 講演要旨
◇[本の紹介] 吉村智博著『近代大阪の都市周縁社会 市民・公共・差別』（明石書店/2022.5/5,500円）　本岡拓哉

**■GLOBE(グローブ) 111■**

（世界人権問題研究センター刊 2022.10）
◇[研究報告] 同和問題解決のための実践研究の新展開へ向けて ―隣保事業等の比較　中川理季　ほか

**■GLOBE(グローブ) 112■**

（世界人権問題研究センター刊 2023.1）
◇[グラビア]「日本最初盲唖院創建之地」石碑
◇[研究報告] Yahoo! Japanにおける誹謗中傷・偽情報(フェイクニュース)対策について　今井理恵子
◇[研究報告]「今村家文書」に寄せて　今村壽子
◇ウトロ平和祈念館　団体ガイドプログラム　金秀煥

**■芸備近現代史研究 7■**

（芸備近現代史研究会刊 2023.1.15）
◇小学校教員土井昇と平民社　田中英夫
◇1920年前後の広島県東部地域における部落改善団体について―「大町実行委員会」を中心に―　今岡順二
◇戦後広島県における部落問題と行政施策の歴史 －1945年～2022年― 割石忠典

**■研究所通信 430■**

（部落解放・人権研究所刊 2023.1.1）100円
◇[報告] 第1研究部門『部落史の調査研究』第38～40回公開講座 『水平社創立百周年記念文集』の成果と課題
◇2022年度「第43回 人権・同和問題企業啓発(ｵﾝﾗｲﾝ)講座」報告

**■狭山差別裁判 530■**

（部落解放同盟中央本部 中央狭山闘争本部刊 2022.5.1）300円
◇[主張] 東京高裁は11人の鑑定人尋問とインク鑑定の実施を！事実調べを求める署名運動をさらに広げよう!
◇[石川一雄さん、早智子さんの近況] 事実調べ・再審無罪をめざして　インタビュー：石川一雄さん 石川早智子さん
◇[不当有罪判決から48年をむかえて] 石川一雄さんのメッセージ(2022.10)
◇[速報] 第52回三者協議と今後の課題
‣検察官がタオル関係証拠開示について不見当の意見書(11.7)
‣弁護団が反論の意見書を提出(11.15)
‣第52回三者協議(11.24)
‣解説資料　開示された取調テープで明らかになった自白の非体験性
◇[解説] 事実取調請求 F鑑定人、K鑑定人、J鑑定人

**■狭山差別裁判 531■**

（部落解放同盟中央本部 中央狭山闘争本部刊 2022.8.1）300円
◇[主張] 東京高裁（大膳文男裁判長）は袴田事件の再審開始を！　袴田、狭山ともに再審無罪をめざし、連帯して闘おう！
◇[特集] 袴田事件 最終意見書提出 巖に真の自由を与えてほしい。インタビュー 袴田ひで子さん
◇石川一雄さんから 袴田巖さんへの連帯メッセージ
◇[図書紹介]
‣『袴田事件これでも死刑なのか』（小石勝朗著 現代人文社刊 1,800円＋税）
‣『冤罪白書2022』（「冤罪白書」編集委員会刊 2,200円＋税）

**■狭山大運動 6■**

（狭山事件の再審を実現する大運動刊 2022.12.10）
◇11・25狭山要請行動
◇10・30狭山現地調査報告集会2　本田豊

抗議の集い」実行委員会有志がスタンディング抗議街宣実施。
◇部落解放兵庫県民共闘会議第45回総会報告

**■解放新聞広島県版 2444■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.12.5）
◇[主張] 岸田内閣は総辞職せよ
◇尾道市ふれあい館に差別・脅迫投書
◇全国ブロック別中央解放学校報告
◇県連連続講座・世界人権宣言県実行委合同学習会講演要旨「世界と日本の危険な状況下」山下真澄

**■解放新聞広島県版 2445■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.12.15）
◇差別の現実を踏まえた人権条例制定について広島県知事と県連が意見交換
◇第5回県連執行委員会(11/19)報告
◇広島の部落解放運動2022年闘いの軌跡

**■解放新聞広島県版 2446■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.1.5）
◇広島県水平社創立100年「人類の歴史は自由への闘争記録」 岡田英治

**■解放新聞広島県版 2447■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.1.15）
◇[主張] 人権(解放)保育運動のさらなる進化と創造をすすめよう
◇世界人権宣言74周年記念広島集会(12.3)関連記事
◇広島県連連続人権講座(11.19)報告
◇石川一雄さん新年のメッセージ　ほか

**■解放新聞広島県版 2448■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.1.25）
◇[主張] 仏教ならざる経典をどうする
◇第39回同和問題に取り組む全国企業連絡会全国集会(12.9)「ヒロシマで考える差別と平和」報告
◇2022部落解放・人権政策の確立を求める第51回広島県民集会講演要旨『フィリピン先住民の苦難と闘い（上)』　デクデケン・サラ・キロンガン

**■解放新聞広島県版 2449■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.2.5）
◇[主張] 危険な岸田政権と対峙を
◇2023県連荊冠旗開き関連記事
◇第24回広島県部落解放研究者集会 黒川みどり静岡大学教授が「日本現代史の中の水平社」講演
◇2022部落解放・人権政策の確立を求める第51回広島県民集会講演要旨『フィリピン先住民の苦難と闘い（中)』 デクデケン・サラ・キロンガン

**■解放新聞広島県版 2450■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.2.15）
◇[主張] 統一自治体議員選挙に勝利しよう
◇広島県連解放学校(1.14)報告
◇2022部落解放・人権政策の確立を求める第51回広島県民集会講演要旨『フィリピン先住民の苦難と闘い（下)』 デクデケン・サラ・キロンガン
◇[連載]『わが闘魂の半生』42　小森龍邦

**■解放新聞広島県版 2451■**

（解放新聞社広島支局刊 2023.2.25）
◇[主張]「是旃陀羅」の受け止めをめぐって
◇「全国部落調査」復刻版出版事件控訴審が結審 判決は6月28日関連記事

**■架橋 48■**

（鳥取市人権情報センター刊 2023.2）
◇[特集] アウティングはなぜ問題なのか
‣一橋大学アウティング裁判から考えるアウティングに向き合う周囲の役割　南和行
‣アウティング問題の当事者とは誰か　上川多実
‣共生に向けたウシンリッピタ　北原モコットゥナシ

**■語る･かたる･トーク 334■**

（横浜国際人権センター刊　2022.12.20）550円
◇豊かな心を育むために　子どもたちが必要な食料を得られる社会を創りましょう　山藤太郎
◇国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所人権こども塾　ニュース「生涯の絆を育む板野中学校の人権・部落問題学習1」森口健司
◇[語る・かたる・エッセー] いじめに思う シーズ2「中高生とともに差別と闘う」 ―鳴らない電話―　吉成タダシ
◇[部落史学び直し 問い直しのススメ21] 中世の文化と差別された人々1 龍安寺石庭の二人の名前　外川正明

**■語る･かたる･トーク 335■**

（横浜国際人権センター刊 2023.1.20）550円
◇[部落史学び直し 問い直しのススメ22] 中世の文化と差別された人々「又四郎のつぶやき」　外川正明

**■カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センターたより 64■**

（カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センター刊 2023.1）
◇水平社創立100年記念映画『破戒』を観て 太田勝
◇第14回対話集会「ネット人権侵害と部落差別の現

◇第37回人権啓発研究集会報告
◇第71期京都人権文化講座第5回「コロナ禍が明らかにした女性を取り巻く『暴力・貧困・孤立』報告

**■解放新聞滋賀版 2452■**

（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2023.1.5）
◇新年のご挨拶「大きな変化に対応する部落解放運動を各界各層の人々と協働して創造していこう！」藤野政信
◇各界からの新年のご挨拶

**■解放新聞滋賀版 2453■**

（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2023.1.15）
◇第3回人権セミナー「湖東記念病院冤罪事件から学ぶ」開催(12.14)
◇第47回滋賀県青年集会と2022滋賀県高校生等交流集会―ヒューマンライツwithアクション― を合同開催。

**■解放新聞滋賀版 2454■**

（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2023.1.25）
◇県連荊旗開き開催(1.4)

**■解放新聞滋賀版 2455■**

（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2023.2.5）
◇2022年「人権尊重と部落解放をめざす県民のつどい」関連記事

**■解放新聞滋賀版 2457■**

（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2023.2.25）
◇「全国部落調査」復刻版出版事件控訴審が結審 判決は6月28日
◇第39回同和問題に取り組む全国企業連絡会全国集会(12.9)関連記事

**■解放新聞滋賀版 2458■**

（部落解放同盟滋賀県連合会刊 2023.3.5）
◇第43回全国人権保育研究集会を福山市で開催(2.4～5)

**■解放新聞東京版 1022■**

（解放新聞社東京支局刊2023.1.1）110円
◇新年のご挨拶「全国水平社宣言」の精神を原点に闘いの勝利に向けて奮闘しよう　飯塚康浩
◇2023年 新年のメッセージ　各団体から
◇同和問題に関する東京都との連絡協議会(11/28)報告

**■解放新聞東京版 1023■**

（解放新聞社東京支局刊 2023.2.1）110円
◇「全国部落調査」復刻版出版事件控訴審関連記事
◇第73回全国人権・同和教育研究集会 奈良大会(11.26～27)報告
◇都連と東京都教育委員会の「人権尊重推進校」に関わる意見交換報告
◇地域共闘 活動報告
◇部落解放・人権文化フォーラム2022 セクシュアルマイノリティに対する差別の現状と課題　柳橋晃俊

**■解放新聞奈良県版 1179■**

（解放新聞社奈良支局刊 2022.12.10）50円
◇多文化共生社会の実現に向けて「ならハンウリム」(11/13) 開催
◇部落解放研究第55回全国集会(11/15・16 鳥取 米子市)報告
◇全国ブロック別中央解放学校報告
◇第49回奈良県人権・部落解放研究集会　基調講演(内田樹)要旨1

**■解放新聞奈良県版 1180■**

（解放新聞社奈良支局刊 2022.12.25）50円
◇奈良で全国人権・同和教育研究大会(11/26・27)開催
◇喫緊の取組報告
◇女性部が兵庫県連女性部と意見交換
◇部落解放・人権徳島地方研究実行委員会が奈良県で研修
◇第49回奈良県人権・部落解放研究集会　基調講演(内田樹)要旨2

**■解放新聞奈良県版 1181■**

（解放新聞社奈良支局刊 2023.1.10）50円
◇[主張] 2023年を新たな出発の年に！「両側から超える」部落解放運動のさらなる前進に邁進しよう
◇県・県教育委員会と人権施策調整会議(11.24)報告

**■解放新聞奈良県版 1182■**

（解放新聞社奈良支局刊 2023.2.10）50円
◇県連荊冠旗開き関連記事
◇県連女性部結成50周年記念集会報告

**■解放新聞兵庫版 901■**

（解放新聞兵庫支局刊 2023.1.5）
◇[新春対談] 石川一雄さん・早智子さん×坂本三郎県連委員長
◇[主張] 2023年の展望と課題

**■解放新聞兵庫版 902■**

（解放新聞兵庫支局刊 2023.2.5）
◇[主張] 統一地方選に全力で取り組もう
◇県連荊冠旗開き関連記事
◇被災者支援法の充実を訴え「1・17追悼・連帯・

**■解放新聞愛知版 516■**

（部落解放同盟愛知県連合会刊 2023.1.1）

◇愛知県水平社創立100周年記念集会講演『愛知県水平社をふりかえって』 近藤祐昭

**■解放新聞愛知版 517■**

（部落解放同盟愛知県連合会刊 2023.2.1）

◇2022年「人権週間」記念集会(12.7)関連記事

**■解放新聞大阪版 2299■**

（解放新聞社大阪支局刊 2022.12.15）

◇第４期の部落解放運動の創造に向けた連続講座(12/10)報告

◇運動のイメージをどう変えるか　地域で信頼される運動を創り上げるために赤井隆史

◇[水平時評] 差別から信頼へ　第４期はプラス思考の運動で　赤井隆史

**■解放新聞大阪版 2300■**

（解放新聞社大阪支局刊 2023.1.5）

◇101年目からの運動を進めよう　赤井隆史

◇新年かわら版「大阪市内」・「北摂」・「河内」・「泉州」

◇石川さん新年のメッセージ

◇関東大震災100年を迎えて『朝鮮人虐殺事件を忘れるな』加藤直樹

**■解放新聞大阪版 2301■**

（解放新聞社大阪支局刊 2023.1.15）

◇2023年府連旗開き 新たな出発の集い・新春学習会報告

◇第５回府連拡大執行委員会・第3回府連委員会(12.17) 戸籍不正で被害報告

◇狭山署名が目標達成 事実調べへさらなる協力を

**■解放新聞大阪版 2302■**

（解放新聞社大阪支局刊 2023.1.25）

◇[水平時評] マイノリティは「坑道のカナリア」社会悪察知する人権感覚を　赤井隆史

◇大阪府連女性部旗びらき(1.14)「ジェンダー平等方針の具体化」・「杉田議員は謝罪を」訴える。

◇府連・AIAIおおさか共催の研修会(1.20)アンガーマネジメントを学ぶ

**■解放新聞大阪版 2303■**

（解放新聞社大阪支局刊 2023.2.5）

◇府連、部落解放・人権研究所 主催「2023年新春マスコミ懇談会(1.26)」報告

◇第4期の運動へ連続講座3「まちづくり」テーマに開催

◇府連とAIAIおおさかのハラスメント対策委員会共催の研修会関連記事

**■解放新聞改進版 557■**

（部落解放同盟改進支部刊 2022.12.20）

◇藤森竹田児童館「ＮＰＯ人権ネットワーク・ウェーブ21」取組紹介

◇2022年度教育懇談会開催　テーマ「しんどい子どもたちを取り巻く状況2 ―ICT教育 小学校－」 講師:吉川康浩さん

**■解放新聞改進版 558■**

（部落解放同盟改進支部刊 2023.1.20）

◇2022年度教育懇談会「同和」教育の普遍化と公立学校が果たす役割　～子どもたちの確かな学力と豊かな社会性を育む教育実践を考える～ 第8回 GIGAスクール構想と学校教育現場 実情1　影山功一さん

**■解放新聞改進版 559■**

（部落解放同盟改進支部刊 2023.2.20）

◇改進支部荊冠旗びらき関連記事

◇2022年度教育懇談会「同和」教育の普遍化と公立学校が果たす役割 ～子どもたちの確かな学力と豊かな社会性を育む教育実践を考える～ 第9回 GIGAスクール構想と学校教育現場の実情２ 森川浩孝さん

**■解放新聞京都版 1246■**

（解放新聞社京都支局刊 2023.1.1）70円

◇「部落解放運動の未来の展望を」京都府連委員長 西島藤彦

◇金城実さんが水平社宣言を琉球語に翻訳

◇「水平社創立の魂と誓いを受け継ぐ」村井一成

**■解放新聞京都版 1247■**

（解放新聞社京都支局刊 2023.1.20）70円

◇京都府総括交渉(12.26)「ヤングケアラー支援拡充を」条例制定や不正取得抑制も

◇北部地域で市町村交渉(12月)「ネット上の差別投稿対策求める」

◇第28回中央福祉学校 京都で開催(12.10) ヤングケアラーへの支援を報告

◇第71期京都人権文化講座第3回(11.28)「島の喫茶店から声を届ける―ハンセン病をいろんな視点から―」報告

◇荊冠旗びらき関連記事

**■解放新聞京都版 1249■**

（解放新聞社京都支局刊 2023.2.15）70円

◇第38回人権啓発研究集会 来年2月京都で開催

◇京都府連が卒業証書西暦表記を府教委に申し入れ

（部落解放大阪府民共闘会議刊 2023.2.15）
◇狭山事件・第53回三者協議(1.31)関連記事
◇在阪マスコミ各社が参加する2023年新春マスコミ懇談会(1.26)関連記事
◇大阪市教育活動ネットワークが大阪市と交渉
◇解放共闘教育部会 大阪府教育交渉(上)・在日朝鮮人教育・帰国渡日の子どもたちの教育報告

**■解放新聞 3049■**

（解放新聞社刊 2022.12.25）115円
◇[主張] 全国水平社創立の原点に立ち返り、101年目からの部落解放運動を切り拓いていこう
◇「世界人権宣言」具体化に向けた記念集会(12/6東京・大阪)関連記事
◇琉球遺骨返還訴訟控訴審の報告集会で「水平社宣言」琉球語訳を披露　金城実
◇人権施策の具体化求めた福井県連の取組報告
◇[第48回部落解放文学賞・受賞作 紹介]『ばあさんとぼく』1　川口泰弘

**■解放新聞 3050■**

（解放新聞社刊 2023.1.5）115円
◇石川一雄さん・石川早智子さんの色鉛筆画　木村かよ子
◇２０２３年 各界の年頭ごあいさつ
◇石川さん夫妻インタビュー
◇狭山裁判は正念場　河村健夫
◇狭山の風を各地から

**■解放新聞 3051■**

（解放新聞社刊 2023.1.15）115円
◇第28回中央福祉学校(12/10・11 京都)報告
◇第3回中央執行委員会(12/12)報告
◇[主張] 部落解放に向けた新たな展望を切り拓く勝利の年に
◇[寄稿] 第10回アイヌ感謝祭を終えて　島田あけみ
◇石川一雄さん年頭のメッセージ

**■解放新聞 3052■**

（解放新聞社刊 2023.1.25）115円
◇[主張] 復刻版裁判控訴審・第2回口頭弁論に結集しよう
◇[連載] まなぶ　つながる　うごきだす「識字のいま1」菅原智恵美
◇[連載] 「熱と光」にみちびかれて　部落解放への教育1 森実
◇[第43回部落解放文学賞・受賞作]　識字部門「ばあさんとボク」3 川口泰弘

**■解放新聞 3053■**

（解放新聞社刊 2023.2.5）115円
◇[主張]「戦争をする国」づくりを許さず、全国各地から連帯と協働の闘いを強めよう
◇「入管体制」とは、私たちの「恥」である　中村一成
◇栃木県行政書士戸籍等不正取得事件関連記事
◇部落解放第28回中央福祉学校(12.10~11)関連記事
◇[第43回部落解放文学賞・受賞作]　識字部門「ばあさんとボク」4 川口泰弘

**■解放新聞 3054■**

（解放新聞社刊 2023.2.10）115円
◇2023年度(第80期)一般運動方針(第1次草案)
1 部落解放運動をめぐる情勢の特徴
2 部落解放運動の基本方向と当面する課題

**■解放新聞 3055■**

（解放新聞社刊 2023.2.15）115円
◇[主張] 第80回全国大会の成功に向けて
◇[特集] 2022年闘争日録(1～6月) 全国水平社創立から100年 部落解放運動の大道を
◇「全国部落調査」復刻版出版事件控訴審が結審 判決は6月28日午後2時
◇[連載] まなぶ　つながる　うごきだす「識字のいま2」菅原智恵美
◇部落解放第28回中央福祉学校から2 グループ討議の報告
◇[第43回部落解放文学賞・受賞作]　識字部門「ばあさんとボク」5 川口泰弘

**■解放新聞 3056■**

（解放新聞社刊 2023.2.25）115円
◇[主張] 狭山の署名運動を継続・強化し、事実調べを実現しよう
◇第43回全国人権保育研究集会(2.4・5)報告
◇[特集] 2022年闘争日録(7～12月) 狭山事件の事実調べの実現を
◇部落解放第28回中央福祉学校から3 学習2 報告
◇[連載] 「熱と光」にみちびかれて 部落解放への教育2　森実

**■解放新聞愛知版 514■**

（部落解放同盟愛知県連合会刊 2022.11.1）
◇愛知県人権尊重の社会づくり条例 4月1日施行
◇県連・名古屋市交渉(9/8)「名古屋市人権条例」制定を要求

**■解放新聞愛知版 515■**

（部落解放同盟愛知県連合会刊 2022.12.1）
◇愛知県水平社創立100周年記念集会(11.10)報告

# 収集逐次刊行物目次 （2023 年 1 月～3 月受入）

―各逐次刊行物の目次の中から部落問題に関係のあるものを中心にピックアップしました―

**■あいぽーと通信 63■**

（徳島県立人権教育啓発センター刊 2022.12）

◇[特集]「私は差別なんかしていない」と思っていませんか？ ―部落問題を通して考える日常の中の差別― 上川多実

**■アイユ 379■**

（人権教育啓発推進センター刊 2022.12.15）

◇人権デー(12.10)に寄せる アントニオ・グテーレス国連事務総長メッセージ

◇ヒューマンフェスタとちぎ2022(11,5) 報告

◇第40回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品紹介

**■アイユ 381■**

（人権教育啓発推進センター刊 2023.2.15）

◇[インタビュー] 障がいのある人、平和、ハンセン病… ファッションを通じた問題提起の先駆者として　鶴田能史

◇[連載] 障害のある人と人権　渡辺和実

◇[第41回全国中学生人権作文コンテスト]

‣内閣総理大臣賞「大きく息を吹き込む世界へ」松葉悠乃

‣法務大臣賞「偏見は差別」深尾和弘

**■朝田教育財団だより 38■**

（朝田教育財団刊 2023.1）

◇[短報] カリフォルニア・バークレーから：マイノリティコミュニティとアクティビズムが息づく街 山本崇記

◇奨学生の近況 2022年度 「教育課題、教員の過酷な勤務と不平等な子どもの学習環境」 岡崎洸一郎

◇2022年度第2回奨学生交流会(12.17)報

◇第73回全国人権・同和教育研究大会奈良大会に参加して　鍵村信夫

◇全国水平社創立と崇仁地区　森本弘義

◇『新版 差別と闘いつづけて』の発刊の頃三川譲二

**■明日を拓く 134･135■**

（「明日を拓く」編集委員会刊 2022.12.25）2,000円

◇全国部落調査復刻版出版事件裁判控訴審に向けて 片岡明幸

◇[特集/差別論研究会の総括議論]
分節化する「差別」、交差する「差別」―部落解放運動・フェミニズムの歴史を踏まえつつ―

‣多様な「差別」、交差する「差別」のポリティックス ―差別論と部落解放運動の現在地―　吉田勉

‣「差別論研究会」へ ―「差別」に抗する思想運動をどう捉え直すか　井桁碧

‣差別の分節化と再構造化の途上で ―差別論研会のやってきたこと― 全体討議

**■解放共闘大阪 1147■**

（部落解放大阪府民共闘会議刊 2023.1.1･1.15合併）

◇新年の挨拶『戦争への道を阻止！平和・人権を守り抜こう！』

◇「部落探訪」の動画削除報告

◇青年共闘会議定期総会(12/10)報告

◇部落解放共闘第39回交流会・地方共闘全国連絡会議総会報告

◇石川一雄さん新年のメッセージ

**■解放共闘大阪 1149■**

**事務局より**

◇昨年度、当研究所にコンピュータご寄贈いただきました。そのおかげで閲覧室に蔵書検索用のコンピュータを設置することができました。書名や著者名などを入力するだけでお探しの書籍を簡単に見つけることができるようになりました。是非ご利用ください。
この場をお借りしましてご寄付に感謝の意を表します。誠にありがとうございます。

□所在地　〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階
□TEL/FAX 075-415-1032　□E-mail qm8m-ndmt@asahi-net.or.jp
□URL http://shiryo.suishinkyoukai.jp
□開室時間　月曜日～水曜日・金曜日・第2・第4土曜日10時~17時（祝日・年末年始は休みます）
□交通機関　市営地下鉄烏丸線「鞍馬口駅」（京都駅より約10分）下車　北へ徒歩5分